

子どもから大人、若者から高齢者に至るまでのすべての人の文化を

文化高知

2019年1月 NO.207



〔もくじ〕

- 2～3 音楽活動と少し裏話④—ヒゲンジツシュギ—…宮地克也
- 4～5 1月開催 第187回市民映画会…山本嘉博
- 6～7 高知の写真に魅せられて…天野圭悟
- 8～9 落語はつながりを作る…岩垂桂也
- 10 「アンテナ」故・帆足寿夫氏との出会い…下尾仁
- 11 こうちまんがフェスティバル2018
- 12～13 高知市文化振興事業団10月の事業から
- 14～15 風俗歳時記・風伯

表紙デザイン：「知らない街へ飛んでゆこう」市原 未智

公益財団法人高知市文化振興事業団

音楽活動と少し裏話④

「ヒゲンジツシユギ」

宮地 克也

ヒラノ君がヒゲンジツシユギを脱退して三人から二人になり、僕とはるやは二人の新しい形を模索中でした。そこで、レコーディングした楽曲二曲をCDにして、新宿駅西口で路上ライブを始め、それと同時に「路上ライブ十万円プロジェクト」を始めました。これは、次回作のCD製作費十万円を路上ライブの投げ銭で集め、一円でも協力してくれた方には次回作を無料でお渡しするというもの。

ただし、連絡先や送り先が分からないとお渡しできないのでファンクラブに入会をお願いし、入会してくださった方には今あるCDをお渡しするという具合です。音楽好きの方、仕事帰りの方、学生さん、旅行者、とにかくいろんな方

から協力してもらいました。また意外なことに、ヒゲンジツシユギの路上ライブは外国人の方がよく立ち止まるということが分かり、いろんな国の方との交流を持ちました。

プロジェクト達成には約九か月と想像以上に長い時間が掛かりましたが、ファンクラブのメールマガジン登録者は三百人強、そして投げ銭だけの方の協力もあり、ミニアルバム『ヒゲンジツシユギ』を発売することができました。当時は聞いたことが無かったですが、いわゆるクラウドファンディングの一つの形だったのだと思います。本格的にヒゲンジツシユギの活動がスタートし、初ライブは、ワタナベエンターテインメントの養

成所を卒業した芸人さん達が毎月開催する「侵略者ライブ」というお笑いライブ。初出演では上手く空気が掴めず空回り。主催者の芸人さんに、来月もう一度だけチャンスを下さいと頼み込んで、そのイベントに合ったやり方を必死で考えました。はるやが現在の様にコップや靴や色々なものを使ってギターを弾くようになったのはこのライブでアピールする為。また、毎月出演するうちに、一緒にコンサートやダンス、大喜利をしたり、違うジャンルでのステージも経験した大切なライブ。この経験は、今の僕が行っている観光イベントや色々な催しの企画やプロデュース、総合エンターテインメントという道に面白さを感じるきっかけになりました。

そんな風に色々な経験を積みながら、定期的にレコーディングに出かけ、未発表曲をストックし、活動に沿った形でリリース。ワンマンライブや主催イベントを開催して、相変わらず路上ライブも継続。しっかりと地に足が着いた状態での活動が続きました。また、「僕のいる世界」がラジオCM曲のタイアップを獲得。そんなことも影響してか、この頃から地元高知の観光イベントや音楽イベントへの出演依頼、学校や福祉系の催しでの、生きることや心、命といったテーマでのトーク&ライブの講演依頼を頂くようになりました。

二〇一五年には、「ヒゲンジツシユギ結成三周年&ベストアルバムリリースツアー」を発表。ツアーは翌年二月、宿毛市から始まり、ツアーファイナルは三月十一日の東京。初めてのツアーは、それぞれ何かしらご縁のある場所での開催でしたが、何せ単なる無名のバンド。少しでも沢山の人に来て貰う為に各地のTV局やラジオや新聞、雑誌にアポなしで飛び込み。そう簡単にはいきませんでした、が、

どうか告知させて頂くという作業を繰り返しました。中でも地元高知は優しく、メディアさんやファンの皆さんが積極的に情報の拡散に力を貸してくれました。また、このプロモーション期間に、高知で活躍するお笑いコンビ、ツアリスさんとのご縁を頂き、今では月に一度の定期ライブや、半年に一度の総合エンターテイメントフェスティバルを共に開催するほどのお付き合いになりました。

そうして、ツアーとアルバムの宣伝をしながら、地元大月町の産業祭に出演した時に現在の妻と出会い、あつという間に年が明けて二〇一六年二月、ツアー初日の宿毛公演の日。東京、横浜、神戸など全国各地からメンバーが集結。ステージに立つて客席を見ると、立ち見続出の超満員。始まったと思っただけで終わってしまった二時間半。アンコールではこのツアーのコンセプトにもなったベストアルバムの表題曲【光と影】で初日を締めくくりました。地元の人たちが、頑張っただけで背中を押してくれ、CDの予約やTシャツなどのグッズも信じられないく

らいたくさん購入してくれて、勇気をもって次の愛媛公演に臨めました。

大学時代を過ごした愛媛県松山市。愛媛公演は学生時代からお世話になってきたバーのマスターがオーナーをしている会場。初めましてのお客様、友人やその友人、大学時代の教授、更には定食屋のおばちゃんと兄ちゃんまで。ツアー中、一番小規模な場所でしたが、何だか我が家の様な客席の顔ぶれに、妙にホッとしました。

初のツアーを体験して、早くもこのあたりで体力勝負だぞ、と気付きました。現場入り、リハ、本番、撤収、食事、移動、睡眠。現場入り、リハ……。このスケジュールはきつい。そんなことも予想出来ていなかった僕は、落ちそうな険を必死で開きながら、一路高知市へと車を走らせました。

そして高知キャラバンサライでの高知公演。競演に高知バンド界の雄ZIKIDA（ジキダ）さん、目下売り出し中のUNBRANFORD（アンブランフォード）、そしてレジェンドともいわれる堀内佳さんなど豪華なゲストと共に

高知公演がスタート。

イベントが始まってからラストのヒゲンジツシユギの一番になるまで、全ての出演者が最高でした。どんどんどんどん高くなるエネルギーの波。最高のライブで緊張したのを覚えています。そしてヒゲンジツシユギも過去最高のライブになりました。

ライブをしている最中、考えるともなく感じていました。やつとGroundを超えられたと。ヒラノ君とはるやと、ただガムシヤラに熱量だけで叫び続けた、あのグサい、不細工で不器用で、でも確信的にアツいものを持っていた過去をやつと超えてヒゲンジツシユギが一番好きだと。

力いっぱい燃え尽きることが出来た高知公演の翌日。メンバーが一旦それぞれの場所に戻るのを見送りながら、向かうツアーファイナルとベストアルバムのリリースのことを考えていました。そしてこのツアーが終わったら、活動の拠点を高知に移そうと心に決めました。

ツアーファイナルの東京は、特に親交の深い二人のシンガーと四

組のバンドとの計七組でまるでフェスの様なライブになりました。その中には勿論、ヒラノ君の姿も。こういう感情が未だに分かりませんが、ライブを見て涙が溢れて止まらなかったのは、後にも先にもこの時だけです。

このライブの後、共演者やお客さんから、ヒゲンジツシユギを見て、歌う意味とか生きる意味みたいなものを感じたよ、ありがとうと言って貰えたのが嬉しかったです。本当に長くて、でも大きな意味のあるイベントとなりました。文化高知の掲載も次号で最終回テーマは拠点を高知に移してからのことになろうと思います。

みやじ かつや

一九八四年生まれ、大月町出身。大月町役場を退職後ミュージシャンに転向。現在はヒゲンジツシユギのボーカルとして活動中。

1月24日・25日開催 第187回市民映画会

『ロング、ロングバケーション』 (The Leisure Seeker)

監督 パオロ・ヴィルズィ

『輝ける人生』(Finding Your Feet)

監督 リチャード・ロンクレイン

今回のラインナップは、いかにも高齢者層に向けたような作品ではあるが、実際に高齢になってから観るのでは遅いよという内容だ。奇しくも『ロング、ロングバケーション』のオープニングに、キャロル・キングの歌う♪イツ・トゥ・レイト♪が設えられているのは、そういう意味合いがあつてのことなのかもしれない。

同作は、認知症が進行しつつある老夫ジョン（ドナルド・サザーランド）を抱え、末期癌に見舞われている老妻エラ（ヘレン・ミレン）が、夫の運転するキャンピングカーで、文学の教師だった夫の敬愛するヘミングウェイの家を訪ねる物語だ。ボストンにある自宅からアメリカ最南端、フロリダのキーウェストへと旅するロードムービーだが、なぜかイタリア映画なのだ。

劇中早々に流れ、エンディングでも流れるジャニス・ジョプリンの歌う♪ミー・アンド・ボビー・マギー♪のなかの「Freedom's just another word for nothin' left to lose（自由とは、失うものが何もないってこと）」という歌詞がしみじみと伝わってくる終活映画だった。

キャロル・キングもジャニス・ジョプリンも時代を象徴するシンガーで、エラと歳の頃を同じくする女性たちなのだろう。彼女たちの生き方に共通するのが自己決定権の行使であり、常識に囚われない行動力の発揮なのだというのが作り手の想いなのだろう。味わい深い選曲だ。

老いた男というのは押し並べてそうなのだろうが、いかにもお気楽で手のかかる子どものような存在だ。子どもならしでかさないような不埒もうっかり晒したりする点に、他人事ならぬ危惧を抱く御仁もいるのではないだろうか。そういった事々に苛立ったり憤慨したりしながらも全て呑み込んでいける度量をエラにもたらしめているのが、喜怒哀楽を共にした50年だけではなくて、この“失うものが何もない”という状況でもあるわけだ。そのことがしみじみと伝わってきて、得も言われぬ感慨をもたらしてくれる。若く元気なうちは、なかなかこの境地に至れるものではない。さればこそ、エラとジョンが味わっている自由を、観る側もじっくり噛み締めたいところだ。

映画を観ているうちに次第にフロリダ行きの目的は、単にヘミングウェイの家を訪ねることだけではないはずだと誰しもが思うように進んでいくのだが、フロリダで待っていたものに驚かされた。そして、そういった運びのなかに込められている作り手の人生観に、大いなる好感を覚えた。意表を突く場面の連続とも言える脚本が秀逸で、奇を衒^{おも}っているようには映ってこないところが素敵だ。人生とは、悲喜こもごもを抱えつつ、余暇を求めて旅することなのだ。それゆえに、二人が乗り込んで旅するボンゴツ車の呼び名“レジャー・シーカー（余暇搜索者）”が、本作の原題にもなっているのだろう。そして、その先に待っているのが邦題となっている“長い、長い休暇”なのだろう。どちらとも、

なかなか良い題名だ。

バーガーを食べたいとやおら言い出す夫に付き合いながらも、自らは一口齧^{かじ}るだけでいいと水しか注文しないのは、病状の重篤さによる食欲減退もあろうが、常々儉約を心掛けていることが偲ばれた。その一方で、「たまにはきちんとしたベッドで寝たい」とキャンピングカーを降りたものの、「500ドルのスイートルームしか空いていない」との応えに怯みつつ、4割近い値引きとなる「320ドルにまける」と言われると、「少し高いけれども」とすぐさま釣られる庶民感覚が微笑ましい。ささやかなスペシャルナイトを楽しんでいた彼らの味わい深い道中を堪能させてもらったように思う。イタリア映画らしいポジティブ感が本当に気持ちよく心に沁みてきた。

もう一方の作品『輝ける人生』もまた、物語の背景には認知症と癌があった。一見すると、対照的な結末のようでいて、実は大いに通じる場所のあるイギリス映画だ。

仲睦まじく暮らしてきたはずなのに、夫である自分を認知できなくなった妻に涙していた愛妻家のチャーリー（ティモシー・スポール）と、『ロング、ロングバケーション』のエラとはキャラクターが被るようなところのある姉ビフ（セリア・イムリー）の導きによって、彼女の妹サンドラ（イメルダ・スタウトン）が人生の歩み直しを始める物語だ。サンドラは、警察本部長にまで栄達した夫のキャリアにぶら下がっているだけの生き方を、お高く取り澄ました生活態度で過ごしてきた女性だ。今だにマリファナを吸っているような自由気ままな姉とは疎遠にしていたのだが、夫が顔見知りの女性と浮気していたことに憤り家を出たものの、行き場がなくて姉の元を訪ねる。

かつてプロを目指したこともあるダンスからもすっかり遠ざかっていたサンドラが、姉に誘われた高齢者ダンス教室で、得意としていた足さばきを少しずつ取り戻し、見つけ出していく姿が原題の直接的に意味するところなのだろう。だが、同時にそれは「（大地を踏みしめるようにして地に足の着いた人生を歩むための）あなたの足を見つけること」でもあったようだ。本来の自分が立つべき足をサンドラが見つけ出していくエンディングの待っている本作の主題を確かに表してもいた。

そういう意味では、どちらの作品も“自己決定権の行使と常識に囚われない行動力”を称揚していたように思われるが、イタリア映画のほうがややシニカルで、イギリス映画のほうがより楽天的だといえるところが、双方のお国柄の反対をいくようで興味深い。

ビフが妹に言っていた「死ぬことを恐れているからって、生きることまで恐れないで！」との言葉は、エラにも通じていて、たとえ死期が間近に迫ろうとも、残された生を果敢なチャレンジ精神で臨む^{あっぱ}天晴れな終活が見事だった。両作ともに、1960年代の政治の季節を過ごし、反体制的で、性差別や人種的偏見を乗り越えようとして生きてきた時代のタフな女性たちの映画であると同時に、大いなる観応えと示唆を次代に与えてくれるエンターテインメントになっていた。ある種の辛辣さを笑いで包み、歳が幾つになろうとも、人には為すべきことがあることを教えてくれる。

（高知のオフシアターベストテン選考委員会事務局長 山本嘉博）

第187回市民映画会

1月24日（木）25日（金）、かるぽーと大ホールにて開催。

上映時間は下記の通り。

『ロング、ロングバケーション』	11時、15時25分、19時35分
『輝ける人生』	13時15分、17時30分



高知の写真に魅せられて

天野 圭悟

私が初めて高知に来たのは今から八年前、二〇一〇年に東京都写真美術館で行った初期写真の調査に同行した時でした。高知は井上俊三という、日本写真の開祖である上野彦馬から写真を習った人がいましたので、有名な坂本龍馬像だけでなく、他の珍しい初期写真もあるだろうとこのことで調査をしました。ところが、こちらが思っていた以上に珍しい初期写真が次から次へと出てきて、若き日の牧野富太郎が被写体となったガラスの写真は今でも覚えています。

充実した調査が終わり、帰りにある学芸員さんに「鰹のたたき食べた？塩たたき。高知に来たら食べないと」と言われ、鰹のたたきは知っているものの「塩たたき」は未知の食べ物でしたので、一緒に調査をしていた学芸員と実

際に食べてみることにしました。出された鰹のたたきには塩が振られ、柑橘系の果汁をつけて食べると、さっぱりしていてお肉のようで、普段食べるポン酢とはちがった高知でしか食べられない美味しさでした。その後、川沿いにあった餃子の屋台とかアイスとか、高知の食を堪能しました。

初期写真の調査をしにきたのか、高知グルメを堪能してきたのか分からなくなっていました。初期写真の調査とはちよつとだけ密接なところもあります。他の地域の調査でもそうしているのですが、繁華街の調査をし、土地のものを食べるようにしています。それは古くから繁華街が栄え、食文化が豊かな地域には初期写真が多に残っていることが多いからです。日本に写真が入ってきた幕末、

写真は新しいメディアで、当時の日本人には「不気味なもの」でしかありませんでした。そんな写真を真っ先に取り入れたのは明日をも知れない幕末の志士たちと芸者衆でした。例えば長崎の料亭花月には今でも芸者衆の初期写真がた

くさん残されているように、繁華街の近くには写真を撮る場所があった、または写真を撮れる人がいたことを窺い知ることができます。そんな土地の記憶をたどるような調査も初期写真の調査では行っていました。

高知の充実した調査を終え、一年後の二〇一一年に調査を基に展覧会を開催し、若き日の牧野富太郎像や山内家のお姫様の写真が展示されました。その後、東京都庭園美術館で働くことになり、旧朝香宮家の膨大な資料の整理や昭和

初期に建てられたアールデコ様式の建築物の調査を四年ほど行いました。そんな中、石元泰博の写真など全てが高知県に寄贈され、フォトセンターができるニュースを聞いて、石元さんすごいことをしたなとは思っていました。まさか自分がその中で働くことになるとは当時は思ってもいませんでした。

高知県は二〇一一年に高知県立美術館で開催した高知県ゆかりの写真家・石元泰博の回顧展をきっかけに、プリント約三万五千枚、フィルム約十五万枚、蔵書約五万冊、カメラ機材等、石元泰博の作



《牧野富太郎記念館》1999年
©高知県、石元泰博フォトセンター



《860-880 レイク・ショア・ドライブ・アパートメント》1966年
©高知県、石元泰博フォトセンター

品と関係資料全てを石元氏及びご家族よりご寄贈いただくことになりました。また、併せて著作権の譲渡も受け、著作権の管理、作品の活用を図る業務が急務となりました。そこで二〇一三年、高知県立美術館内に石元氏の名前を冠した「石元泰博フォトセンター」を開設し、翌年十月には作品を常設展示する「石元泰博展示室」、ネガ・ポジフィルム保管用の「フィルム保管庫」、蔵書の保管や資料整理、調査のための「作業・保管室」が整備されました。この「石元泰博展示室」は、広さ約八十五㎡の石元泰博コレクション専用の

展示室で、年間三つのテーマに基づき前後期合計六回の展示を行い、作品をはじめ石元氏の愛用品や東京にあった自宅の部屋を再現展示で紹介しています。

写真家からこれだけのコレクションを寄贈されるケースは無く、内容的にも、研究を進める上でもとても魅力的なコレクションなので、自分がこれまで経験してきた写真とアーカイブの仕事を活かせればと採用試験を受けました。

採用が決まりこの四月から石元泰博フォトセンターの中で働いておりますが、フォトセンターの活動は、貴重な石元コレクションを

高知県のみならず社会の共有財産とするために、作品を管理し、研究する「深める」活動、展覧会開催やデータベース・サービスなど「広める」活動、石元氏の思想と作品に親しんでもらう「つなぐ」活動の三つのテーマから、多角的に活動を展開し、石元泰博という写真家の人間像と作品を広く深く伝えていこうと活動を行っています。最近では石元泰博の母校でもある土佐市の高岡第二小学校へアウトリーチに出かけたり、その小学校の子どもたちを美術館へ招いて実際に作品を見てもらうなどの活動を行っています。

この冬の美術館は「建築」をテーマにした展覧会が二つ行われます。まず、一階第四展示室では「石元泰博写真展 建築家・磯崎新、内藤廣の仕事」と題しまして「建築写真家」としての石元泰博の仕事を紹介いたします。石元さんの写真家としてのキャリアの中で特に交流の深かった二人の建築家にフォーカスを当てた展示を行います。一九七〇年代から八〇年代にかけて流行した、ポストモダン建築を多く設計した磯崎新さんや牧

野植物園内にあります牧野富太郎記念館を設計した内藤廣さんの建築を撮影したプリントや資料を約百五十点ほど展示します。また、二階石元泰博展示室では「石元泰博・コレクション展」としまして「国東紀行」「HANA」「シカゴ建築」の三つのテーマで開催をしています。現在は「シカゴ建築」というテーマで一九六六年にシカゴの街で撮影した名建築群の写真を紹介しています。他にも内藤廣さんの講演会などのイベントも実施いたしますので、この冬は是非高知県立美術館へお越しください。

※初期写真：古写真と呼ばれる幕末から明治三十年ぐらいに撮影された写真のこと

あまの けいこ

一九七三年生まれ、神奈川県川崎市出身。
高知県立美術館石元泰博フォトセンター長代理。

落語はつながりを作る

岩垂 桂也

「落語を試してみたら?」この一言が私と落語をつなぎました。

はじめまして。岩垂桂也です。

いわだれけいやと読みます。私は、高知県西部、高岡郡四万十町で高校生向けの塾のスタッフをしています。日々四万十町の高校生に対して、学習のサポートなどを行っています。四万十町には二年半前の二〇一六年十月に来ました。高知県に来る前は東京で大学に通っていましたが、四万十町で塾を立ち上げるということを聞き、大学を休学して四万十町に来ました。一時的ではなく休学して高知に来た理由は、自分が事業を立ち上げたい、多くの人と関わって人の成長

や変化に立ち会いたいという希望があったからです。

四万十町では人生初の一人暮らし。洗濯、掃除、料理など一人でやるのが初めてなことばかりで本当に戸惑いました。ですが、周囲のいろんな人がサポートし手助けをしてくれたおかげでなんとか乗り切ることができました。

高知の人は東京の人たちと比べて温厚で優しい印象です。

そのような



方たちと仕事をしていると本当に毎日が楽しくて充実した日々を過ごしています。

さて、私は高知県に来て取り組んでいることがあります。それは「落語」です。タイトルの「落語を試してみたら?」という一言は僕が落語を始めるきっかけになった言

葉です。どうして私が落語を始めたのか。それは、自分の想いを相手に分かるように伝えたいという気持ちがあったからです。というのも、私は塾のスタッフをしていて、人に物事を伝える技術が必要なのにも関わらず、人に何かを伝えることが得意ではありません。普段から「何言ってるの?」「え? もっと声はって!」と言われてしまいます。落語を試してみたら?という一言は「どうしたらいいんだろうか?」と途方に迷っていた私にある方がかけてくれた言葉です。その言葉が私と落語をつないでくれました。

最初は、自分のスキルアップのための落語だと思っていましたが、やり続けていくうちに落語って楽しいと感じるようになり、もっと続けてみたいという気持ちになりました。そんなとき、高知市内で開催された社会人落語の落語会に参加しました。そこで、今所属している高知の大学生や社会人が中心となって運営しているサークルに出会います。まだ始めてから間もないですが、四回も高座に上がらせていただいております。小学生から高齢の方まで本当に幅広い年齢層の方々の前で落語をして



います。本当に貴重な体験をして
いると思っています。四回もやっ
ていくうちにだんだんと気づくこ
とがあります。それは、落語は人
と人をつないでいるということだ
す。「つながる」人とは、落語に
出てくる登場人物、今昔の落語家
さん、小中高生、同世代、普段接

することのない幅広い世代や職業
に携わる人たち、人の笑顔。一つ
一つは小さなことかもしれないで
すが、落語はそれらと私をつないで
います。それは、落語が身一つで
できる唯一の演芸だからこそ、よ
り強くそう感じるのかもしれない
ん。そして、若者から高齢の方ま
で幅広く知られている歴史
を持つていることも理由の
ひとつであると思います。

私にとってこの落語が生
み出す「つながり」は、私
のいる環境を大きく広げて
くれたものです。というの
も、高知に来て二年。いま
では塾の運営でいっぱい
っぱいになり四十万十町外へ
出ることはあまり多くあり
ませんでした。東京からせ
っかく来たのにこれでは東
京での生活と同じ。多くの
人とのつながりがありますが
せんでした。ですが、この
落語に出会ったことで、出
かける場所が増え、多くの
人とのつながることができま
した。

例えば、今年十月下旬に
かるぽーとで行われた落語
家・桂九雀さんの落語のワ



ークシヨップです。落語をしてい
なければ、ワークシヨップのこと
は知らなかったでしょうし、桂九
雀さんとも出会っていなかったと
思います。落語を始めたことによ
って九雀さんをはじめ高知県で活
動している演劇の方とも出会い、
つながることができました。

身一つでできるのが魅力の落語、
私はその落語を使ってこれまでに
つながってきた人たちに感謝と笑

顔を届けたいと思います。
そして、新たなつながりを
大事にしていきたいです。
まだまだスキルのなところは
十分でないのも、もっと
合間を縫って稽古をしてい
きたいと思っています。あ
とは今のところできる落語
が一つしかないのも（笑）、
もっとたくさんの落語を覚
えたいですね。



いわだれ けいや

一九九五年東京都出身。四十万
町在住。

「アンテナ」

故・帆足寿夫氏との

出会い

下尾 仁



周波数を合わせれば、いろんな人と出会い繋がることができる。アンテナを高くたて沢山の人と繋がる。

一九九六年、高知市文化振興事業団が企画した市民ミュージカル『絵金』に参加した時、作・演出をしていたのが帆足さんであった。眼光鋭く、声は地面を這うような重低音。帆足さんがいるだけで緊張感のある練習。それまで舞台など出た事もない僕は、このように作り上げられていくんだと全てが新鮮であった。練習も中盤に差し掛かったある日、帆足さんがみんなに、強制ではないがもしよければ自分が主宰している劇団「演劇センター90」の公演を観るようにと勧められた。もちろん興味があった僕は、すぐにチケットを買った。

それまで僕は演劇など見たこともなく、ましてや、この高知に劇

団があることすら知らなかった。

公演は、小津町にある薫的神社の敷地内にある小屋で開催された。中に入ると満員の観客。舞台に目をやるとしつかりと組まれたセツト。芝居が始まると役者たちは一人一人が輝きを放ち、すぐに僕は演劇という世界、いやセンター90に引き込まれていった。

ついさっきまで、まったく知らなかった世界がこの小屋で繰り広げられていたのだ。あつという間に芝居は終わり余韻に浸っている。と、演出の帆足さんが出てきて挨拶をされた。僕はこんな凄い人に稽古をつけてもらっているんだと改めて思った。

ミュージカルの練習も終盤に差し掛かったある日、帆足さんが僕に話しかけてきた。なんだろうか思っていると、「センター90」次の公演に、お前にピッタリの役がある。どうだ出てみないか」との

話であった。

まさか!! あんな凄い役者の方たちと一緒に、こんなドロウトの自分が同じ舞台に立てるのか、誘ってもらって嬉しい気持ちと、怖い気持ちが交錯して胸が高鳴ったのを覚えている。本当に自分で大丈夫なのかと思ったが、せっかくの話なので出演させてもらうことにした。それからはミュージカルとセンター90の練習の両方をこなす日々だった。

初めてセンター90の練習に行った時は本当に緊張した。もちろんのことだが、前回見た芝居に出演していた人たちがそこにいる。プロの役者のような人たちの中にドロウトの僕という状況である。だが、右も左もわからない僕に帆足さんは的確な指示を出してくれた。時には怒鳴られ時には笑顔で。帆足さんのおかげで、僕はミュージカルもセンター90の舞台も無事にやり終えることができた。

演劇の稽古での帆足さんは本当に怖かったが、稽古以外ではやさしく、僕の知らない演劇の事などいろいろ話を聞かせてもらった。その一言一言が本当に演劇が好きなんだなあと思えた。

それから劇団員になり、何本かセンター90の舞台に出させてもらった。だが、仕事を変えたこともあり、三年ほどして僕はセンター

90を辞めることになった。それでも僕は繋がりを持ち続けたかった。で、舞台本番のセツト作りなど、少しでも出来ることがあればと関わらせてもらっていた。

ある時突然、帆足さんが劇団を解散しようとしていると劇団員から聞いた。演劇のことが大好きな帆足さんが、劇団を辞めるのだから大変な決断だったと思う。

しばらくして僕は、酒を片手に帆足さんの家を訪ねてみた。「おう、何しに来た? まあ上がれ」とコーヒーをご馳走してくれ、二時間ほど世間話をしたが何故劇団解散に至ったかは聞き出せず、僕はまた今度酒を飲みに来ますと帆足さんの家を後にした。

またいつか聞けると思っていたが、二〇一八年九月十七日、帆足さんは天国に旅立ってしまった。今、僕が演劇や表現活動が出来ているのも帆足さんに出会えたからだと思っている。本当に本当にありがとうございます。

しもお ひとし

一九六九年生まれ
岡豊高校一期生。二十五歳ぐらいに演劇に目覚め、日夜面白い事はないかとキョロキョロしている。

こうちまんが フェスティバル 2018

こうちまんがフェスティバル2018

まんが 16th

今年で十六回目を迎えたまんがイベント「まんさい・こうちまんがフェスティバル2018」が十一月三日、四日の二日間、かるぽー



とを中心に開催され、延べ三万人を超える参加者で賑わいました。

一日目は、オープニングセレモニーのお菓子投げで始まり、恒例になった第十四回4コマまんが大賞受賞者表彰式、谷山紀章さん・林勇さんのW声優による豪華トークショー、ゲストに和島あみさんと田口華有さん、MANNAを迎えた「まんさいアニソンライブ」と盛りだくさんの内容で、会場は熱気と歓声に包まれました。別会場となった帯屋町商店街内の金高堂書店本店前ウッドデッキでは正木秀尚さん、雪本愁二さん、森田将文さんによるライブドロイングが開催されました。

二日目の声優トークショーは、二度目のまんさい登場となった緑川光さんが出演。来場者から寄せられた「私の好きなセリフ」のり



クエストを受け、実際に披露するという大サービスもありました。人気イベントの「じもきやらステージ」は、今年は撮影が可能に。来場者はお気に入りのじもきやらをカメラに収めていました。豪華景品を賭けた真剣バトルが繰り広げられた「ふきだしで吹き出せ!」は瞬時のアイデアが勝敗を決めました。

また、二日にわたり実施された「セルシス協賛ライブドロイング」一日目は、急遽参加が決まっ

たあきまん(安田朗)さんと、「トリマニア」連載中の久世岳さん。あきまんさんの細密なタッチで描かれていくゲームキャラクターを間近で見ることができ、「ストリートファイターII」などのゲームをプレイしたことのある人には幸せなひとときとなりました。久世岳さんと二日目に参加された「はたらく細胞」連載中の清水茜さんのお二人は、ライブドロイングで描いた絵を、単行本購入者の特典としてプレゼントしてくれ、サービス満載のイベントになりました。

その他の会場では、毎年人気の「村岡マサヒロすみっこであいましょう」や「まんがで遊ぼう!」といった大人から子どもまで楽しめるイベント、緑川光さん、森田将文さんが出演しラジオの公開収録を行った「NHKブース」、「小学館コロコロまんさいスペシャルブース」など無料で参加できるイベントも開催されました。三年ぶりに登場した「animate cafe キッチンカー」は大人気ゲーム「あんさんぶるスターズ」とのコラボレーションで出店。まんがとアニメを満喫できる二日間になりました。

10月の事業から

チルドレン

世界が注目するイギリス人女流作家ルーシー・カークウッド作の作品を、高畑淳子、鶴見辰吾、若村麻由美の三名が二時間ノンストップでしゃべり続けたお芝居。

物語は、原発事故後の元科学技術者三名の生き方や人生の終わらせ方など考えさせられる部分も多く、難しかったという意見もあった中、大多数のお客様が絶賛の声を届けてくださいました。

開催日時…平成三十年十月十日

会場…高知市文化プラザ大ホール

入場者数…六百五十名

■アンケートより

・初めて見た舞台がこの作品で良かったなと思いました。ありがとうございました。
・シリアスから急に笑いに転じたり…とても役者の力が光る二時間でした。不条理な世界と関わる人々の覚悟を知りました。知るべき、考えるべきことでした。

うたごえin高知 Part2

うたごえ出前喫茶がやってくる

二年五か月ぶりに東京・新宿の「歌声喫茶もしび」の出前うたごえ公演を開催しました。

入場者全員にともしび歌集を無料で貸し出し、歌手・司会進行役の寺谷宏さん、行員ひろみさんが客席から集めたカードのリクエスト曲を中心に会場全体で歌い交わしました。高知のうたごえ喫茶で親しまれた歌「あじさい」が紹介され、地元有志が急遽舞台上がり合唱しました。



第二十九回

高知出版学術賞

推薦募集

優れた学術研究の振興は、文化や出版の向上のみならず、広く高知県の発展に貢献します。「高知出版学術賞」は、当該年における最も優れた学術出版を顕彰することによって、学術研究の振興を図り、県勢の進展に資することを目的としています。

【対象】

① 高知県内に在住する者の学術的著述、または他県在住者で高知県に関する事項をテーマにした学術的著述。
② 二〇一八年一月一日～十二月三十一日に発行された単行本（発行日は奥付の日付による）。

【推薦】

推薦は自薦・他薦を問いません。必要事項を所定の推薦書に記入し、該当図書三部を添えて審査委員会へ提出してください（図書は、申し出により審査後に二部まで返却します。要項・推薦書をご希望の方には送付します。また推薦書は、当事業団のホームページからダウンロードできますのでご利用ください。

受付締切：二〇一九年三月二十日（木）

【表彰】

高知出版学術賞・三点以内に賞状と賞金十万円、特別賞・一点以内に賞状と賞金五万円を贈ります。

推薦・お問い合わせ先

〒780-0185 高知市九反田二一

（公財）高知市文化振興事業団内

高知出版学術賞審査委員会

TEL：〇八八八八三三〇七

FAX：〇八八八八三三〇六九

e-mail:kakub@kcta.jp

http://www.kcta.jp

高知市文化振興事業団

開催日時…平成三十年十月十三日
会 場…高知市文化プラザ大ホール
入場者数…二百五十九名

■アンケートより

・会場に入って、練習だけで若返りました。はりきりすぎて娘に笑われました。
・出演者の進行もうまく、みんなが楽しめるように配慮が素晴らしい。再会を楽しみにしています。



平成30年度公共ホール演劇ネットワーク事業

桂九雀で田中啓文、

こともあろうに内藤裕敬。

第一部では、落語ネタを題材にしたミステリー小説（田中啓文著）が原作の内藤裕敬作「笑酔亭梅寿謎解晰〜立ち切れ線香の章」を上演し、第二部では桂九雀師匠による落語会を開催しました。第二部の前には、公演前日に実施した落語ワークショップの参加者による落語披露も行われました。

開催日時…平成三十年十月二十一日
会 場…高知市文化プラザ小ホール
入場者数…七十三名

■アンケートより

・話がつぎつぎ変わったり、ワークショップの方々もおもしろかった。
・第一部の芝居を観ることで、役者さんの解釈によって演じ方が変わるのがよくわかりおもしろかったです。
・九雀さんの生落語よかったです。これを機に独演会で高知に来てほしいですね。



第35回写真コンテスト・高知を撮る 作品募集

過去から現在に至る高知県内の出来事や風景、人々のくらしを記録し、郷土の様々な表情を伝えるとともに、未来の高知のあるべき姿を考えていこうというものです。優れた作品は、平成31年3月19日（火）から開催される入選作品展にて、たくさんの方にご覧いただけます。

【募集テーマ】

○記録写真部門 ①平成の部 ②昭和以前の部【高知県に関する記録性を持った写真】
○I LOVE 高知部門【あなたの好きな高知の写真（平成30年1月1日以降に撮影されたもの）】

【賞】

各部門ともに特選2点（賞状・賞金3万円）、準特選10点以内（賞状・賞金1万円）

【応募要領】

・出品料は無料、応募はどなたでも、一人何点でも応募できます。
・サイズは、カラー・モノクロともにワイド四ツ切サイズ以上とし、組写真は3枚までとします。
・平成31年1月31日（木）締切です。※その他詳細はお問い合わせください。

【応募先】

高知市文化振興事業団 写真コンテスト係（月曜休館。祝日・振替休日には開館）
〒780-8529 高知市九反田2-1 TEL 088-883-5071



第34回「I LOVE 高知部門」準特選「紅葉の囁み」（西岡 政寛）



高知を撮る

第34回写真コンテスト入賞作品

ひそかに残る小さな昭和

(平成29年12月24日 高知市仁井田)

片岡 高輔

家の近所を散歩して見つけた。昔の風景がそのまま残っており撮影しました。

「こちらはドクトル・ワトソン」と紹介されたのを聞いてホームズは「不整合」を感じる。医者と言えば、色の白いインテリタイプの人間が多いのに、ワトソンは真っ黒に日焼けして軍人のようながつちりとした体格をしている。医者であることと軍人であることが両立する仕事は軍医だ。この人物は軍医に違いない。ところが、軍医なのに負傷している。軍医は負傷しないのが普通である。負傷した兵士を治療するのが軍医だから、軍医が負傷するわけにはいかない。軍医は、常に戦場の一番安全な場所にいるものなのである。ここに、不

ホームズの推理



風俗歳時記

シャーロックホームズとワトソンが初めて出会ったとき、ホームズが口にした言葉は有名である。「あなたはアフガニスタンにいましたね。」これだけである。
シンプルな言葉だが、ワトソンは衝撃を受ける。初対面なのに、どうして自分がアフガニスタン帰りだとわかったのだろう。このなぞは、二人が共同生活を始めてから解き明かされる。ホームズが教えた推理のプロセスはこうだ。

整合がある。そこから、以下の推理が展開する。
イギリスが最近、軍医が負傷するほどの負け戦をした場所、しかも顔が真っ黒に日焼けするほど暑い所と言え、アフガニスタンしかない。その考察から「あなたはアフガニスタンにおられましたね」という言葉が生まれたのである。この指示によってワトソンは畏敬の念をもって共同生活者を見直すことになる。

さて、ここで私が注目するのはホームズの推理の方法である。これは文学作品を読み解く方法と同じなのである。小説を読みながら、書かれている言葉を手がかりにして、書かれていない内容を読み取ってゆくとき、まず手がかりにするのが「不整合」だ。例えば、司馬遼太郎の『竜馬がゆく』はなぜ「龍馬がゆく」と表記しないのだろうか。『坂本龍馬』が本来の呼称であるのに。この問いから、様々な文学的考察が可能になる。私にとって、ホームズの推理は、文学作品を読み解く上で貴重な手引きになっている。

(本の虫)

DIVE into JAZZ!!

新谷健介オノマトペの 愉快なニューオリンズジャズライブ

2019.2.16 sat 13:30 start (13:00 open)

高知市文化プラザかるぽーと大ホール

全席自由 未就学児入場無料

一般 1,000円 (当日 1,200円)

高校生 500円 (当日 600円)

【お問い合わせ】

高知市文化振興事業団

088-883-5071

小学生200名
無料ご招待
申込受付中!!



風伯

車社会から

し前に、徳島の道の悪さは自分で車を走らせていて、脇道に入るとしばしば感じたことです。

香川はどうなのか、香川県は四国のなかでも他県人が多いため特徴がつかめないのかも知れません。では、高知県は？。いろいろな人が助手席に座りますが、車を運転して横からよく聞かされるのが苦言です。「ウインカ

「伊予の早曲がり」、「阿波の悪路」、こんな言葉を聞いたことがありますか。これは車を運転していて感じるこのよう、この数カ月に立て続けにこんな話を聞かされました。愛媛の人は、曲がるときにサッと曲がる。ウインカーも出さずにスッと曲がる」というのが、「ほんとうかなあ」とちょっと眉をひそめながら、皆さんどうですか。少

「も出さずに無理矢理前に入ってきた」とか、いまにも止まりそうになるのろろ運転の車を見て「きつと年寄りに違いない!」と横を追い越してみると青年であつたりすること。逆に猛スピードで追い越そうとする「きつと血の気の多いおにいちゃんだろう」と予想すると、なんと若いおねえさんだったりするのです。

ともかく車に乗ると驚かされることや腹の立つこと、イライラすることがあまりに多い。道の脇から入ろうとする車を入らせない余裕のない車ばかりだし、片側一車線で右折車の後ろに車が渋滞しているのに通らせてやらない風景をよく見ます。たまに人格者の車に出会って、追いかけていって名前と電話番号を聞きたくありません。

ともあれ、車を運転したり助手席に乗っているだけでイライラしないために、車のない世界に住みたい気分です。

(霖)

KOCHI
ART
MESSE

2019.1.17 [THU] - 20 [SUN]
高知市文化プラザかるぽーと7階展示室

入場
無料

Kochi Art Messe —高知アートメッセ—

精力的に活動する高知の若手作家から公募した平面作品の展示・販売を行う企画展です。「メッセ」とはドイツ語で見本市を意味します。鑑賞はもちろん、好みの作品や作家を見つける、気に入った作品を購入し飾って楽しむなど、いろいろな角度からアートを気軽にお楽しみください。

【日時】

2019年1月17日(木)~20日(日)

10:00~18:30(ただし最終日は17:00まで)

【会場】

高知市文化プラザかるぽーと7階

市民ギャラリー第1展示室

【入場料】

無料

【お問い合わせ】

高知市文化振興事業団 088-883-5071

今号の表紙

知らない街へ飛んでゆこう

市原 未智

1月号の表紙デザインなので、2019年、新しい所へ新しい街へ、新しい自分を探す旅へ出ようという思いを込めてデザインしました。

2019年は年号も変わり新しい時代になります。このデザインを見た方が、新しい時代に知らない街へ飛んで行ってみたいと思っていただけたらと思います。

(いちばら みさと/

国際デザイン・ビューティカレッジ1年生)



ある父を巡る哀しい喜劇
コメディ

Le Père 父

2019年3月6日(水) 高知市文化プラザかるぽーと大ホール

開演19:00(開場18:30) 料金(全席指定):S席(1・2階)7,000円 A席(3階)4,000円 チケット発売日:2018年11月1日(木)

共催: サンテレビ 主催・お問い合わせ:公益財団法人高知市文化振興事業団 088-883-5071 <http://www.bunkaplaza.or.jp>



企画:東京芸術劇場 共同製作:東京芸術劇場 兵庫県立芸術文化センター 公式サイト:<https://www.father-stage.jp> ※未就学児の入場はご遠慮ください